

高崎市文化財調査報告書第 254 集

上中居・宇名室遺跡

— 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 254 集

上中居・宇名室遺跡

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は共同住宅建設に伴い実施された、「上中居・宇名室遺跡」（高崎市遺跡番号 448）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在は、群馬県高崎市上中居町字宇名室 1158 番地 1 である。
3. 発掘調査は、平成 21 年 7 月 6 日から平成 21 年 8 月 18 日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監理・監督のもと、三村工業株式会社から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会	株式会社シン技術コンサル
田口一郎、角田真也	調査担当 安生素明
須田奈保子	測量担当 小笠原良人

6. 本書の編集は、安生・坂本勝一・荒井洋（株式会社シン技術コンサル）が行った。執筆は第 I 章を田口、他を安生が行った。
7. 本調査における図面・写真・遺物は高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査及び報告書作成に従事した作業員は、以下の通りである。（敬称略・五十音順）
新井かをり、飯出好幸、伊藤希和子、宇津木有美、岡田広志、小田利光、小淵光弘、川端貞雄、
串淵春江、佐藤久美子、佐藤貞夫、鈴木澄江、鈴木 実、関口裕子、高橋孝子、田口美代子、千葉和枝、
橋本芳男、松本布三子、丸橋律子、村磯光子、森 鐵、森下綾子、山田千鶴子、大和律子、吉田瑠美子、
六反田達子
9. 発掘調査の実施及び本書の刊行にあたり、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略）
坂口 一、山際哲章、山下工業株式会社、株式会社トラスト技研、細谷印刷有限会社

凡 例

1. 本書掲載の第1図は国土地理院発行1/25,000の地形図『前橋』・『高崎』を、第2図は高崎市発行1/2,500都市計画図を、それぞれ使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は、座標北である。
3. 土層の色調は『標準土色帖』（農林水産省技術会議事務局・（財）日本色彩研究所色票監修2005版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SD=溝、SK=土坑である。
5. 火山噴出物の表記は略号を用いた。浅間C軽石=As-C、浅間B軽石=As-B、浅間A軽石=As-Aである。
6. 遺構配置図の座標については、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
7. 写真図版における遺物写真の縮尺は、遺物実測図と同スケールとした。
8. 遺物実測図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。

 黒色処理

目次

例言

凡例

第I章 調査に至る経緯	1
第II章 調査の方法と経過	1
第III章 遺跡の立地と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第IV章 基本層序	8
第V章 検出された遺構と遺物	9
第1節 溝状遺構	9
第2節 土坑	15
第3節 遺構外出土遺物	16
第VI章 まとめ	21
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 周辺の遺跡	4	第7図 SD1 出土遺物 (1)	12
第2図 調査区位置図	7	第8図 SD1 出土遺物 (2)	13
第3図 グリッド配置図	7	第9図 SD2 出土遺物	14
第4図 基本土層柱状図	8	第10図 SK1・2、SK2 出土遺物	15
第5図 遺構全体図	10	第11図 遺構外出土遺物 (1)	16
第6図 SD1・2、Pit1 断面図	11	第12図 遺構外出土遺物 (2)	17

表目次

第1表 周辺遺跡一覧表 (1)	5	第6表 SD1 出土遺物観察表 (2)	19
第2表 周辺遺跡一覧表 (2)	6	第7表 SD2 出土遺物観察表	19
第3表 溝状遺構観察表	18	第8表 SK2 出土遺物観察表	19
第4表 土坑観察表	18	第9表 遺構外出土遺物観察表 (1)	19
第5表 SD1 出土遺物観察表 (1)	18	第10表 遺構外出土遺物観察表 (2)	20

写真図版目次

PL.1 調査区全景、SD1 全景、SD1 A セクション、SD1 B セクション、SD1・SD2 C セクション	
PL.2 調査区東端落ち込み、SD1 D セクション北部、SD1 D セクション中央、SD1 D セクション南部、SD2 全景、SD2 内掘り込み、SK1 全景、SK2 全景	
PL.3 出土遺物 No.1～14	
PL.4 出土遺物 No.15～37・39～42	
PL.5 出土遺物 No.38・43～48、SD1 出土土師器坏	

第 I 章 調査に至る経緯

平成21年3月、三村工業株式会社(以下事業者)より高崎市教育委員会(以下市教委)に上中居町に計画する共同住宅建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地周辺において、区画整理事業や住宅建設に関わり古墳～平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、周辺地域にも広がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年3月30日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年5月13日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の溝跡や掘込み遺構を複数確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社シン技術コンサルに委託して実施することとなり、平成21年7月1日付けで高崎市長・事業者・シン技術コンサルの三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年7月3日付けで事業者とシン技術コンサルの二者で発掘調査委託契約が締結された。

第 II 章 調査の方法と経過

今回の調査は、建物建設予定地310.25㎡を調査対象とした。

調査は、バックホウによって表土からⅦ層(第Ⅳ章基本層序参照)上面付近まで掘削することから開始した。しかし、降雨量が多い時期であったことと、調査地が近年まで水田であり周囲に比べて地表面が低いことから、調査区が冠水してしまい掘削を一時的に中断せざるを得なかった。よって、ノッチタンクを導入し、汚水を濾過したうえで隣接する農業用水路へと排水する処置を施した後、表土掘削を再開した。

Ⅶ層上面を遺構確認面として、ジョレン・移植ゴテなどを用いて遺構確認・調査を行った。なお、確認作業当初から調査区東端においてⅦ層が急激に落ち込んでいることが判明していたが、その付近では湧水が激しく調査区壁が崩落する危険があると判断し、人力での掘削を断念して埋め戻し時に重機で掘削し、調査を行った。

作図作業は、断面図作成は手実測、平面図作成はトータルステーションを使用して行った。写真記録は35mmモノクロネガ・同カラーリバーサルフィルムの2種類を使用し、全景写真の撮影には6×6判モノクロネガ・同カラーリバーサルフィルム、6×7判モノクロネガ・同カラーリバーサルフィルムを併用した。

グリッドの設定にあたっては、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を用いて5mの方眼を組んだ。調査区外南西にあたる $X = 35,660.000$ 、 $Y = -71,880.000$ をA-1グリッドとし、南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字として各々の組み合わせで表示した。各グリッドは南西隅を基点とした。

調査の経過は、以下に掲げる。

平成21年

- 7月6日 機材搬入。表土掘削開始するも、場内浸水のため中断。
- 7月7～14日 排水処理対策を検討。表土掘削はこの間中断。
- 7月15日 ノッチタンク搬入。表土掘削再開。

7月22日	遺構調査開始。
8月12日	調査区全景写真撮影。
8月17日	低地掘削・調査。埋め戻し。遺構調査終了。
8月18日	機材搬出。

第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

関東平野の北西端に位置する高崎市は、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山などの山々を臨み、群馬県内では南西部に位置する。市の南部には浅間隠山などを水源とする烏川が碓氷川・鎭川といった支流を集めながら北西から南東へ流れ、玉村町・伊勢崎市と埼玉県との境界付近で利根川と合流する。この烏川は流域のほとんどが高崎市に含まれる。左岸には榛名山南面の相馬ヶ原扇状地から続く沖積地、その南方に前橋台地が広がり、両者にまたがって市街が形成されている。左岸に比して面積の狭い右岸には、八幡台地・観音山丘陵がある。前橋台地には小河川が数多く流れるが、烏川から取水されて高崎市内を北西から南東へ横断する長野堰が、自然河川と並んで一つの水系をなしている。長野堰は戦国時代、長野氏によって整備されたと伝えられ、大橋町で一貫堀川に分流し、江木町で倉賀野堰・矢中堰・地獄堰・上中居堰へと分水して、井野川や烏川に注いでいる。頭首工から井野川合流点まで合わせると、その総延長は16.4kmを測る。

本遺跡の所在する高崎市上中居町は、JR高崎駅から東へ約1.5kmの前橋台地西部に位置する。この付近は小河川に沿う自然堤防状の微高地と後背湿地によって複雑な地形が形成され、遺跡の西約40mには矢中堰が微高地に沿って南東方向へ流れ、烏川へと注いでいる。今回の調査では南東へと緩やかに傾斜する微高地端部の一部が確認され、複雑な地形の一端を窺うことができる。

第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺では、発掘・分布調査によって多岐にわたる時代の遺跡が見つかっている。

旧石器時代の遺跡は高崎市全体でも数少なく、本遺跡周辺では確認されていない。縄文時代の遺跡は、観音山丘陵(岩野谷丘陵)縁辺部、八幡台地、井野川流域に分布が集中し、本遺跡周辺の微高地には少ないが、南東約1.5kmに中期後半の竪穴住居跡と土坑が検出された下中居条里遺跡(67)がある。また、遺構は検出されていないが、北西約1.1kmにある高関高根遺跡(20)、北方約1.7kmにある宿大類村西遺跡(59)、南西約2.2kmにある城南小校庭遺跡(73)などで土器・石器が出土している。

弥生時代の遺跡は旧高崎市域北東部および北西部の河川沿いに多く、特に北東部の井野川、天王川、染谷川流域には中期後半～後期の集落跡が分布し、右岸の上大類北宅地遺跡(54)・宿大類村西遺跡・万相寺遺跡(61)・高崎情報団地Ⅰ遺跡(62)、左岸の西島相ノ沢遺跡(55)などで後期に属する竪穴住居跡や方形周溝墓などが確認されている。本遺跡周辺の微高地では、本遺跡の北西約1kmにある高関堰村遺跡(18)、高関東沖・村前遺跡(19)や西方約1.2kmの高崎競馬場遺跡(29)などで中期の住居跡と環濠が確認されている。

古墳時代になると、粕沢川流域や烏川左岸、及び井野川右岸に大小の古墳が築造される。北西から南東へと流れる粕沢川右岸には中期初頭に築造された浅間山古墳(83)・大鶴巻古墳(85)、それより一段階後出となる5世紀後半築造の小鶴巻古墳(86)などの大型前方後円墳があり、また、左岸にも前期末～中期初頭築造と考えられる大型円墳の庚申塚古墳(82)、大山古墳(84)、茶臼山古墳が分布する。

一方、上佐野町から下佐野町にかけての烏川左岸一帯には、古墳時代前期から始まり6世紀後半を主体と

する佐野古墳群が分布する。代表的な古墳は、前期末～中期初頭に築造された大型円墳の長者屋敷天王山古墳(81)や、後期前方後円墳の漆山古墳(80)、それとほぼ同時期の円墳である蔵王塚古墳(79)である。これらのうち漆山古墳と蔵王塚古墳では凝灰岩の切石を用いて石室を構築していることが特記される。この近くでは、上佐野舟橋遺跡(75)、舟橋遺跡(76)、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡(78)で前～中期の集落跡が、また、やや南東に離れるが倉賀野万福寺遺跡(89)で前期の住居・方形周溝墓と後期の円墳などが見つまっている。

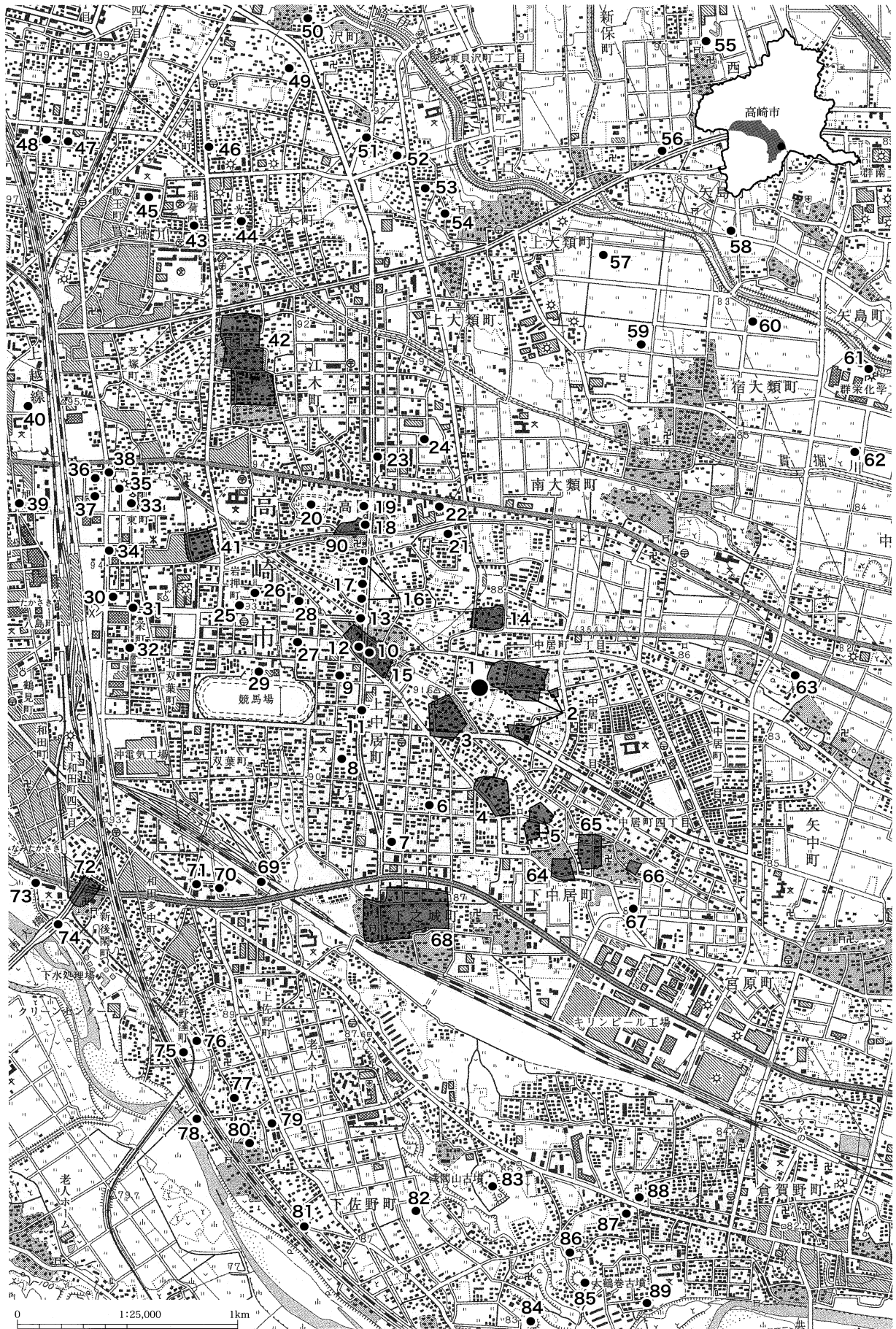
井野川右岸では、高崎情報団地Ⅰ遺跡で帆立貝式を中心とする5世紀後半～6世紀前半の古墳群と、6世紀後半～7世紀の円墳群が見つまっている。同遺跡では、前期集落跡と水田跡も確認された。また、貝沢Ⅰ遺跡(50)では5～6世紀の祭祀跡が、西島相ノ沢遺跡では前期～中期の集落跡が見つまっている。

これらの河川からやや離れた本遺跡周辺では、古墳や大規模な集落遺跡は確認されていないが、高関高根遺跡、高関村前遺跡(16)、下中居条里遺跡で竪穴住居跡が見つまっている。高関高根遺跡は、住居跡の数に比して遺物の出土量が多く、台地上に展開した前期～後期集落の一端である可能性が高い。この他、本遺跡から南へ0.6kmの地点に全長130mと推定される前方後円墳の越後塚古墳(6)があったとされるが、現在では完全に削平されている。

奈良・平安時代の前橋台地では、灌漑技術の発達に伴って後背湿地を中心に大規模な水田開発が行われたことを窺わせる遺跡が見つまっている。このうち水田跡については、天仁元年(1108)の浅間山噴火に伴うAs-B火山灰によって覆われた状態で見つかることもあり、当時の水田経営を知る上での重要な資料となっている。本遺跡周辺では、高関村前Ⅱ遺跡(17)・高関高根遺跡・岡久保遺跡(21)・高関東沖Ⅱ遺跡(22)・高関北沖遺跡(23)高関塚田遺跡(24)・岩押町Ⅰ(25)・Ⅱ遺跡(26)・上中居平塚Ⅱ遺跡(28)・栄町Ⅰ～Ⅲ遺跡(30～32)・東町Ⅰ～Ⅵ遺跡(33～38)でAs-Bに被覆された水田が見つまっている。また、長野堰の北側を東西方向に流れる一貫堀川左岸においても日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡(44)・飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡(45)・飯塚大苗代遺跡(47)・飯塚十二前遺跡(48)でAs-B下水田が見つまっている。これらの水田ではいずれも畦畔が東西方向、南北方向に規則正しく交差しており、条里制に則った開墾、及び整備がなされたと考えられている。一方、集落跡は、低湿地周辺の微高地上に位置する上大類北宅地遺跡、上大類薬師遺跡(53)、宿大類村西遺跡、天田・川押遺跡(57)などで見つまっている。

中世に入ると、豊かな土地を背景にして豪族たちが城郭や屋敷を築き、環濠を伴ったこれらの遺構が各所で見つまっている。本遺跡東には宇名室環濠遺構(2)が、西には新堀砦(3)、南には和田下之城(68)などが確認されている。本遺跡南東の下中居町付近でも、下中居福田屋敷(64)・下中居佐藤屋敷(65)・道場遺跡(66)といった中世環濠屋敷が確認されている。

近世の高崎は、中山道・三国街道の宿場町として、また城下町として発達する。上中居西屋敷Ⅱ遺跡・岩押町Ⅰ遺跡・栄町Ⅰ～Ⅲ遺跡・東町Ⅲ・Ⅴ遺跡・上佐野樋越遺跡(70)では天明三年(1783)の浅間山噴火に伴うAs-Aに埋没した田畑を復旧した痕跡が見つまっている。



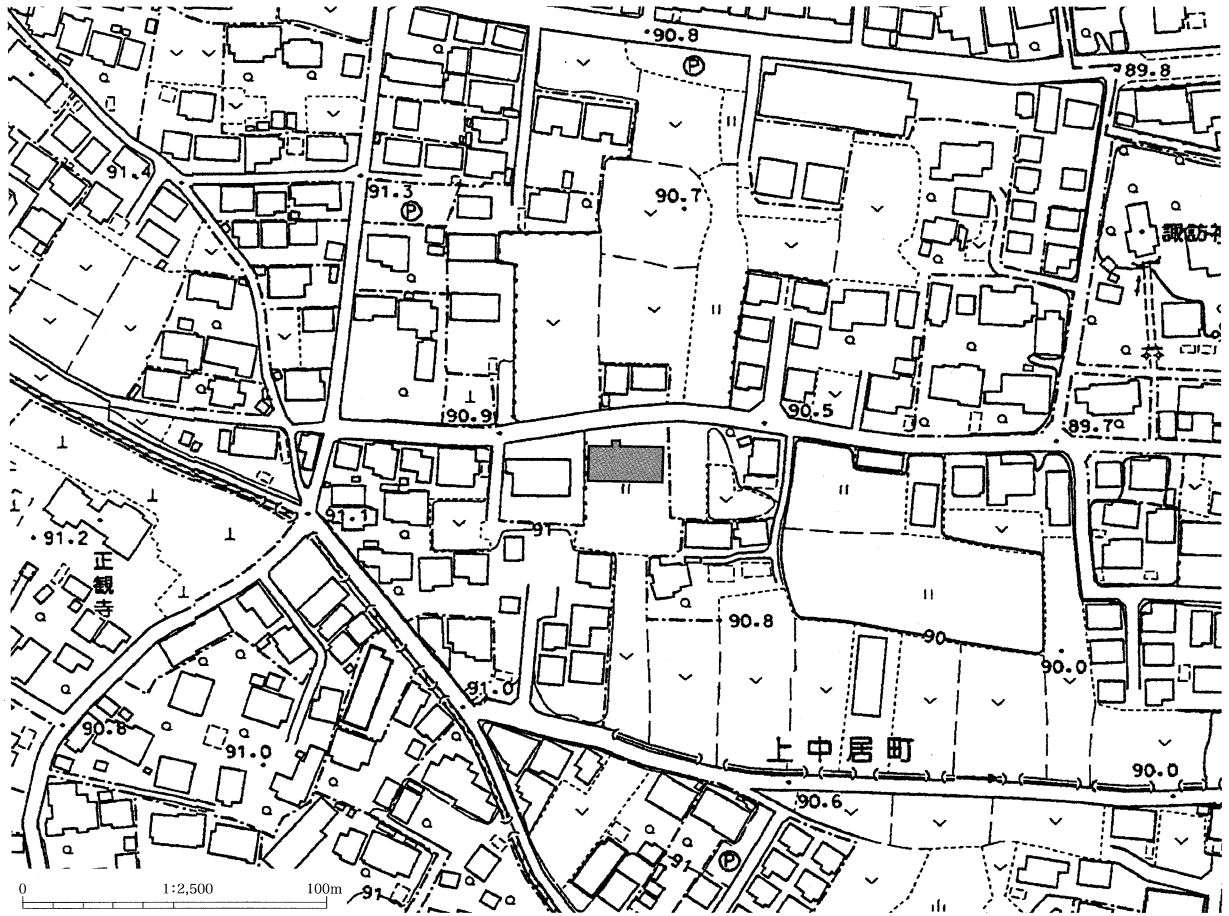
第1図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表（1）

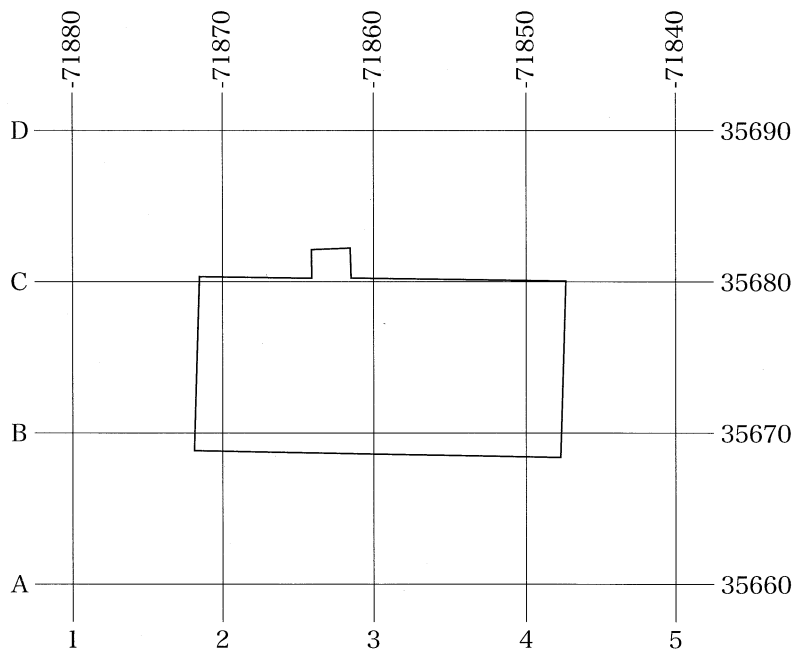
No	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
1	上中居・宇名室遺跡	古墳～古代	古墳後期溝・土坑	—
2	宇名室環濠遺構	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
3	新堀岩	中世	中世砦	「群馬県古城址の研究」下巻 1972年
4	下中居新井屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
5	高尾屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
6	越後塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
7	上中居島薬師遺跡	古代	B下水田	1988年度市教委調査、報告書刊行
8	上中居荒神Ⅰ遺跡	古代	B下水田	1996年度市教委調査、報告書刊行
9	上中居西屋敷Ⅰ遺跡	古代	B下水田	1993年度市教委調査、報告書刊行
10	上中居西屋敷Ⅱ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧痕	1996年度市教委調査、報告書刊行
11	上中居西屋敷Ⅲ遺跡	古代	B下水田	1997年度市教委調査、報告書刊行
12	上中居辻薬師遺跡	古代・中世	B下水田、中世環濠屋敷	1988年度市教委調査、報告書刊行
13	上中居辻薬師Ⅱ遺跡	古墳～中世	古墳前期周溝墓・住居・水路、中世環濠屋敷・墓坑等	1992・93年度市教委調査、報告書刊行
14	丸茂屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
15	反町城	中世	中世城	「上中居辻薬師・同Ⅱ遺跡」
16	高関村前遺跡	弥生～中世	弥生後期住居、古墳住居・掘立、中世掘立・土坑・井戸	1992年度市教委調査、報告書刊行
17	高関村前Ⅱ遺跡	古代・中世	B下水田、中世掘立・井戸・水路	1993年度市教委調査、報告書刊行
18	高関堰村遺跡	弥生、中～近世	弥生中期環濠、中～近世環濠屋敷	1991年度市教委調査、報告書刊行
19	高関東沖・村前遺跡	弥生～近世	弥生中期住居、古墳後期住居、古代水路、中世以降掘立・井戸	1993・94年度市教委調査、報告書刊行
20	高関高根遺跡	縄文～近世	古墳住居、古代住居・井戸、B下水田、中世区画・土坑、井戸	2007年度市教委調査、報告書刊行
21	岡久保遺跡	古代	B下水田	1987年度市教委調査、報告書刊行
22	高関東沖Ⅱ遺跡	古代	B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
23	高関北沖遺跡	古代	B下水田等	1991年度市教委調査、報告書刊行
24	高関塚田遺跡	古代	B下水田	1991年度市教委調査、報告書刊行
25	岩押町Ⅰ遺跡	古代	B下水田、A下水田復旧痕	1993年度市教委調査、報告書刊行
26	岩押町Ⅱ遺跡	古代	B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
27	上中居平塚Ⅰ遺跡	古代	B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
28	上中居平塚Ⅱ遺跡	古代	B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
29	高崎競馬場遺跡	弥生	弥生住居・土器	1969年群馬大学調査
30	栄町Ⅰ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧痕	1995年度市教委調査、報告書刊行
31	栄町Ⅱ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧痕	1998年度市教委調査、報告書刊行
32	栄町Ⅲ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧痕	2003年度市教委調査、報告書刊行
33	東町Ⅰ遺跡	古代・近世	B下水田、近世土坑・溝	1988年度市教委調査、報告書刊行
34	東町Ⅱ遺跡	古代	B下水田	1991年度市教委調査、報告書刊行
35	東町Ⅲ遺跡	弥生～古代・近世	弥生溝・C下水田、B下水田、A下水田他	1993年度市教委調査、報告書刊行
36	東町Ⅳ遺跡	弥生～近世	弥生土坑・溝、B下水田、中～近世溝	1994年度市教委調査、報告書刊行
37	東町Ⅴ遺跡	古代・近世・近代	B下水田、A下水田復旧痕、工場跡	1995年度市教委調査、報告書刊行
38	東町Ⅵ遺跡	古代	B下水田	1999年度市教委調査、報告書刊行
39	旭町Ⅰ遺跡	古代	9世紀洪水層下水田、B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
40	江木諏訪西遺跡	古代・近世	古墳溝、B下水田、近世溝	1994年度市教委調査、報告書刊行
41	岡田屋敷	中世	中世環濠屋敷	「高崎漫歩」1989年
42	江木環濠遺構	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
43	稲荷町Ⅱ遺跡	古墳	円墳	1995年度市教委調査、報告書刊行
44	日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡	古墳・古代	住居、B下水田	1995年度市教委調査、報告書刊行
45	飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡	古代	B下水田	1991年度市教委調査、報告書刊行
46	貝沢天神遺跡	古墳	住居	1991・1992年度市教委調査、報告書刊行
47	飯塚大苗代遺跡	古代	B下水田	1996年度市教委調査、報告書刊行
48	飯塚十二前遺跡	古代	B下水田	1997年度市教委調査、報告書刊行
49	五靈神社古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
50	貝沢Ⅰ遺跡	古墳	祭祀遺物	1993年度市教委調査、報告書刊行
51	聖天山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
52	貝沢柳町遺跡	古墳・平安・中～近世	古墳周溝墓・埴輪棺、平安住居、集石遺構等	1985年度市教委調査、報告書刊行
53	上大類薬師遺跡	弥生～古代	弥生遺物、古墳住居、古代住居	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
54	上大類北宅地遺跡	弥生～古代	弥生住居・方形周溝墓、古墳周溝墓	1981・1982年度市教委調査、報告書刊行
55	西島相ノ沢遺跡	弥生～中世	弥生住居・溝、古代住居・土坑、中世井戸・溝	1990年度市教委調査、報告書刊行
56	新保八坂遺跡	古代	B下水田	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
57	天田・川押遺跡	古代・中世	古代住居・掘立・水田、中世館・掘立・井戸	1982年度市教委調査、報告書刊行
58	矢島町村西・増殿遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	縄文住居、古墳時代住居、奈良・平安住居	1986年度市教委調査、報告書刊行
59	宿大類村西遺跡	縄文～中世	縄文土器、弥生住居、古墳住居、古代住居	1987年度市教委調査、報告書刊行

第2表 周辺遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
60	山鳥・天神遺跡	縄文前期	縄文住居状遺構	1984年度市教委調査、報告書刊行
61	万相寺遺跡	縄文～弥生	縄文住居(敷石)、弥生住居	1985年度市教委調査、報告書刊行
62	高崎情報団地Ⅰ遺跡	弥生～古墳	弥生住居、方形周溝墓、土坑、古墳	1997年度市教委調査、報告書刊行
63	高井屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
64	下中居福田屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
65	下中居佐藤屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
66	道場屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」
67	下中居条里遺跡	縄文中期～近世	縄文住居、古墳・平安住居・土坑・溝・井戸、近世溝・井戸	1996年度市教委調査、報告書刊行
68	和田下之城	中世	中世城	1981年度市教委調査、報告書刊行
69	双葉町Ⅰ遺跡	古墳・古代・近世	古墳後期住居・溝、B下水田、近世溝・堅穴状遺構	1995年度市教委調査、報告書刊行
70	上佐野樋越遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田復旧痕	1994年度市教委調査、報告書刊行
71	和田多中遺跡	古代	B下水田	1988年度市教委調査、報告書刊行
72	新後閑屋敷	中世	中世環濠屋敷	「群馬県歴史散歩」
73	城南小校庭遺跡	縄文～弥生	縄文土器、弥生中～後期住居等	1973年度市教委調査、報告書刊行
74	新後閑寺廻遺跡	古墳・古代	住居他	1990年度市教委調査、報告書刊行
75	上佐野船橋遺跡	古墳・平安	古墳住居・古墳、平安住居等	1990年度市教委・遺調会調査、報告書刊行
76	舟橋遺跡	古墳～中世	古墳住居・土坑・円墳、平安住居・土坑、中世井戸、近世土坑	1974～83年度県教委・群埋文調査、報告書刊行
77	御堂塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
78	下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡	縄文～古墳、平安～近世	縄文住居・土坑、古墳住居・古墳・周溝墓、平安住居・土坑	1976～82年度県教委・群埋文調査、報告書刊行
79	蔵王塚古墳	古墳	円墳	「日本考古学年報10」1963年
80	漆山古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
81	長者屋敷天王山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
82	庚申塚古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
83	浅間山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
84	大山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
85	大鶴巻古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
86	小鶴巻古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
87	一本杉古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
88	安楽寺古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 原始古代1」
89	倉賀野万福寺遺跡	縄文、古墳	縄文住居・土坑、古墳住居・古墳、方形周溝墓	1983年度市教委調査、報告書刊行
90	高閑屋敷	中世	中世環濠屋敷	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」



第2図 調査区位置図



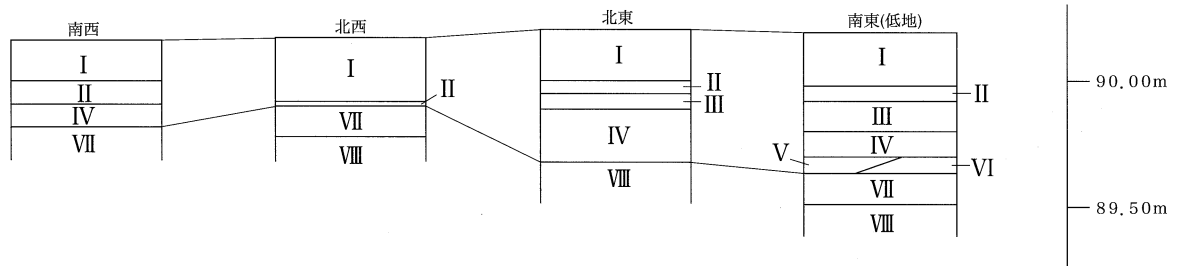
第3図 グリッド配置図

第IV章 基本層序

本遺跡では、I～VIII層の基本土層を確認した。I層は現代の水田耕作土である。II層はAs-B混土である。III層は粘性・縮まりともに強い黒色土層で、上部にAs-Bが混入する。調査区東部の低地付近のみで確認された。IV層～VI層は、比較的標高の低い調査区南部、及び東部で確認された。IV層はAs-Bが少量混入する黒褐色土層である。V層はごく狭い範囲で確認された灰黄褐色砂質土層であり、洪水堆積層と思われる。VI層は低地傾斜面から堆積する砂質土層で、上部には粘質土のブロックが混入する。VII～VIII層はほぼ調査区全域で確認された。VII層は粘性の強い黒色土層で、遺構確認面である。北西から南東へ緩く傾斜して堆積し、東端では急激に落ち込む。VIII層は井野川泥流(高崎泥流)層である。

IV層下部を中心に6世紀中頃～7世紀の遺物が出土し、特に同層が比較的厚く堆積する東端部に遺物が集中する傾向がある。

- I層 褐灰色土(10YR 4/1) 粘性・縮まり有り。現代水田耕作土。
- II層 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性弱。縮まり有り。As-B多量含む。層上面に鉄分が凝集。
- III層 黒色土(10YR1.7/1) 粘性有り。縮まり強。上部にAs-B中量含む。
- IV層 黒褐色土(10YR3/1) 粘性・縮まり有り。微細な礫含む。As-B少量含む。
- V層 灰黄褐色土(10YR5/2) 粘性強。縮まり有り。鉄分含む。やや砂質。
- VI層 灰黄色土(2.5Y6/2) 粘性有り。縮まり弱。鉄分含む。砂質。
- VII層 黒色土(10YR2/1) 粘性・縮まり有り。小礫含む。白色軽石(As-Cか)少量含む。遺構確認面。
- VIII層 明黄褐色土(10YR7/6) 粘性・縮まり有り。小礫を多く含む。砂質。井野川泥流層。



第4図 基本土層柱状図

第V章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、溝状遺構2条、土坑2基、ピット1基である。遺構確認はⅦ層上面で行った。Ⅶ層上面は北西から南東に向かって緩やかに傾斜しており、調査区東端では低地へと向かう落込みが確認された。検出されたピットはこの落込み際にあり、調査区東壁(Dセクション)で断面のみ確認されたため、溝状遺構の断面図中に併せて掲載している(Pit1)。遺物の大半はSD1覆土と調査区東端付近のⅣ層中から出土している。遺構観察表・遺物観察表は章末にまとめて掲載している。

第1節 溝状遺構

SD1 (第5～8図 PL.1～4)

位置 B-1からB-4グリッドにかけて、調査区を東西に横切るかたちで検出された。

規模・形状 検出長24.5m、最大幅8.0m、深度0.71mである。底面標高は調査区西端で89.20m、調査区東端で89.00mである。溝の形状は直線的で、低地へと向かう落ち込み付近で幅が広がり、調査区東端へと達する。断面形状は、やや歪ではあるが逆台形状を呈する。当初は1条の溝と捉えていたが、A～Dセクション4箇所で見積りを行った結果、2回にわたって掘り直されていることが分かった。以下では掘り直された溝を、古い順にSD1-1・SD1-2・SD1-3とし、個別に記述する。なお、第5図は3条を完掘した状態での平面図であり、特定の段階のものではない。

SD1-1

検出長14.76m、最大幅4.0m、深度0.71m。遺構の大半は、SD1-2・1-3によって壊されていた。最初に掘られた溝で覆土9層に当たる。覆土は粘性の強い黒色土で、Ⅷ層に含まれるものと同質の明黄褐色土ブロックを多く含む。Bセクション以東では、SD1-2に壊されており確認できなかった。

SD1-2

検出長24.5m、最大幅8.0m、深度0.5mを測る。底面標高は調査区西端で89.24m、調査区東端で88.96mである。SD1-1の流路を踏襲するかたちで東西方向に走り、Ⅶ層の傾斜に沿って緩やかに東へと傾斜している。SD1-1埋没後に掘り直された溝で、覆土4～8層に当たる。洪水起源と思われる砂質土が主体であり、若干粘性が有る。Cセクション以東では溝幅が広がるのが特徴である。

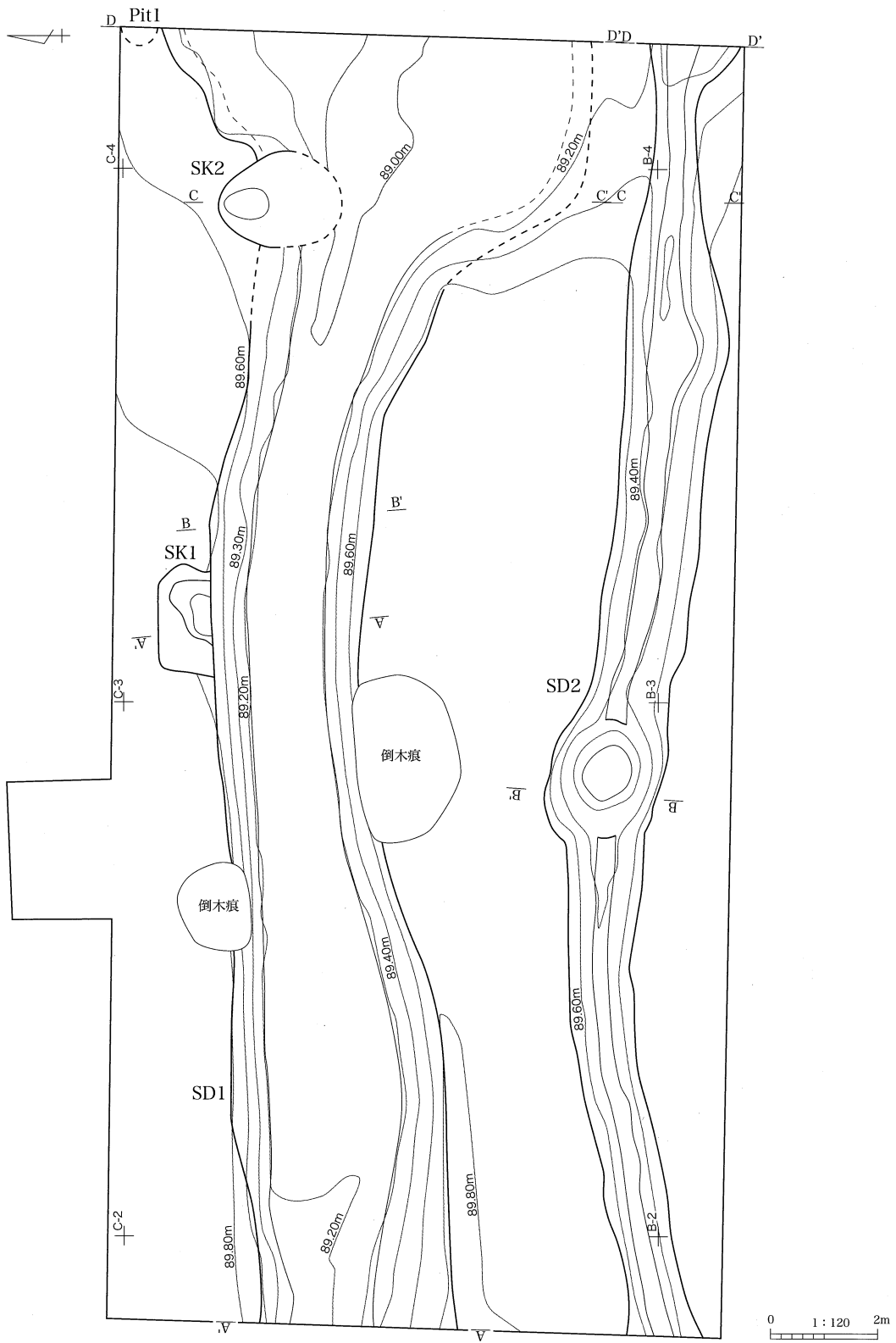
SD1-3

検出長24.5m、最大幅3.5m、深度0.71mである。底面標高は調査区西端が89.24m、Cセクションが89.10m、調査区東端であるDセクションでは89.40mである。僅かに蛇行しながら西から東へと走り、低地へと向かう落ち込み付近で幅が広がり、ほぼ消滅する。覆土1～3層に当たる。覆土は粘性の強い黒色土であり、As-Bは含まない。

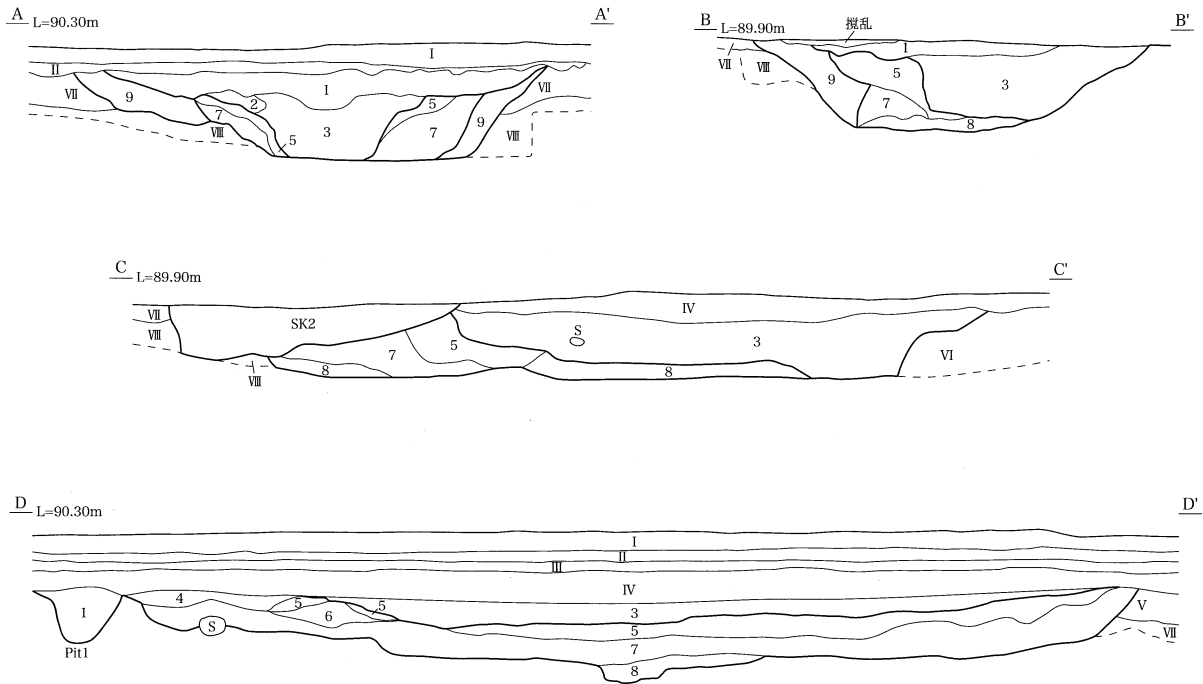
SD1は同じ場所に3回にわたって構築されることから、同じ目的で構築されたと考えられる。溝の性格としては、限られた調査範囲における検出内容から判断するのは困難であるが、灌漑用水路などが考えられる。

出土遺物 SD1-1からは土師器杯(19)が出土している。口縁部が若干内湾したのち口唇部が外反する「く」の字状の口縁部を持ち、埼玉県から東京都にかけて分布する比企型杯の特徴が見られる。

SD1-2からは土師器甕(21)が出土している。口縁部は短く、胴部外面はへら削り、下位は棒状もしくはへ



第5図 遺構全体図

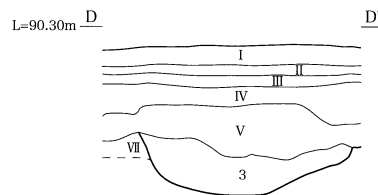
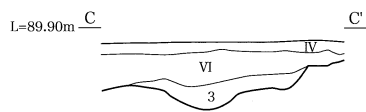
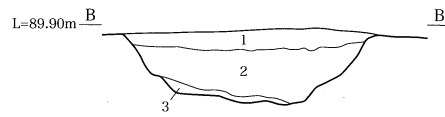
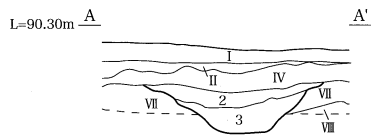


SD1

- 1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) 粘性有り。締まり有り。小礫含む。
- 2 黄灰色土 (2.5Y5/1) 粘性有り。締まり有り。鉄分中量、Ⅷ層土多量含む。
- 3 黒色土 (10YR2/1) 粘性有り。締まり有り。Ⅷ層土少量含む。
- 4 黒色土 (10YR2/1) 粘性有り。締まり有り。Ⅷ層土含む。
- 5 黄灰色土 (2.5Y4/1) 粘性有り。砂質土。鉄分含む。
- 6 黒色土 (2.5Y2/1) 粘性有り。締まり有り。
- 7 灰黄色土 (2.5Y6/2) 粘性弱。締まり弱。砂質土。
- 8 褐灰色土 (10YR4/1) 粘性有り。砂質土。
- 9 黒色土 (2.5Y2/1) 粘性有り。締まり有り。Ⅷ層土多量含む。

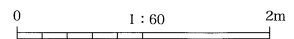
Pit1

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 粘性有り。締まり有り。Ⅷ層土含む。

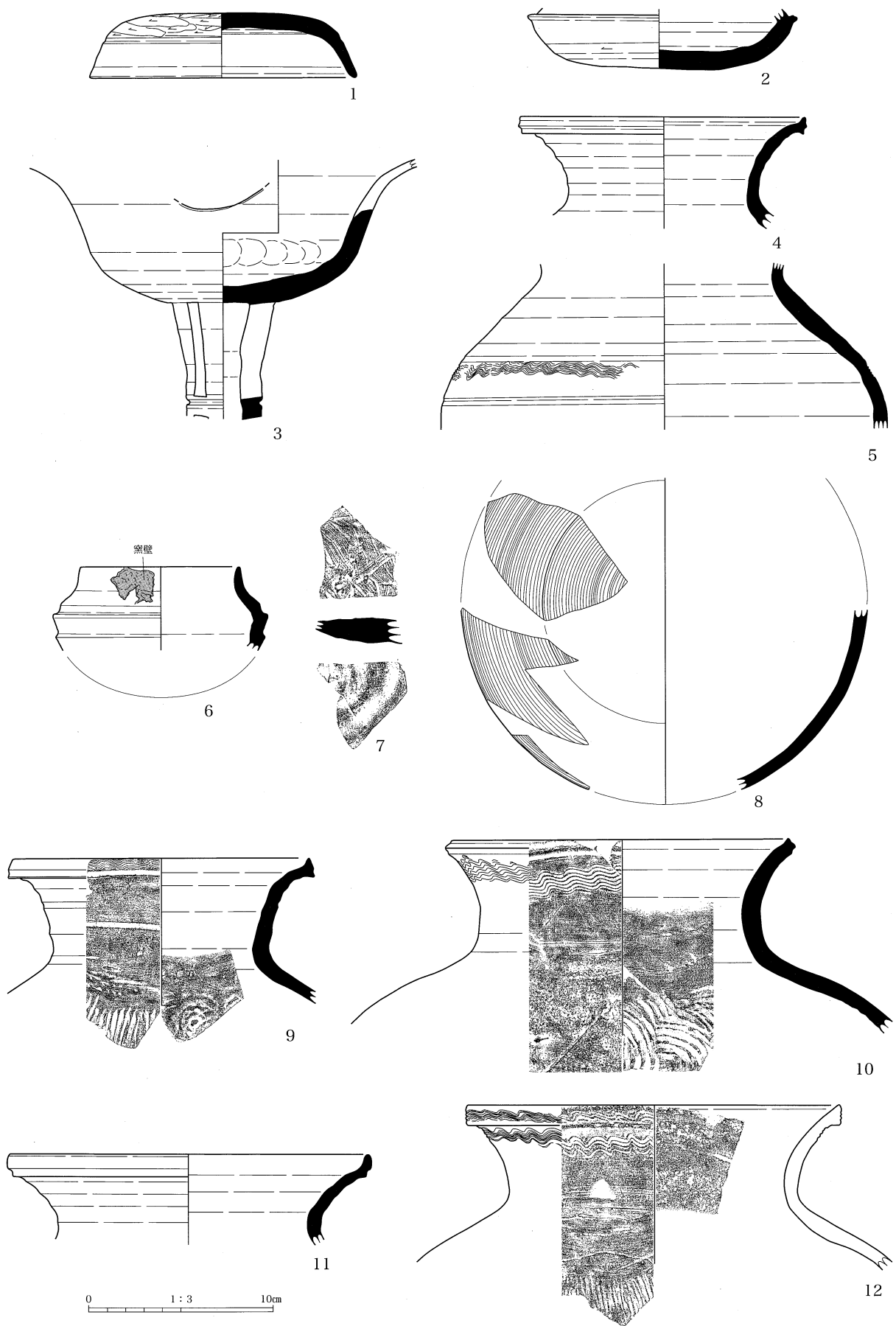


SD2

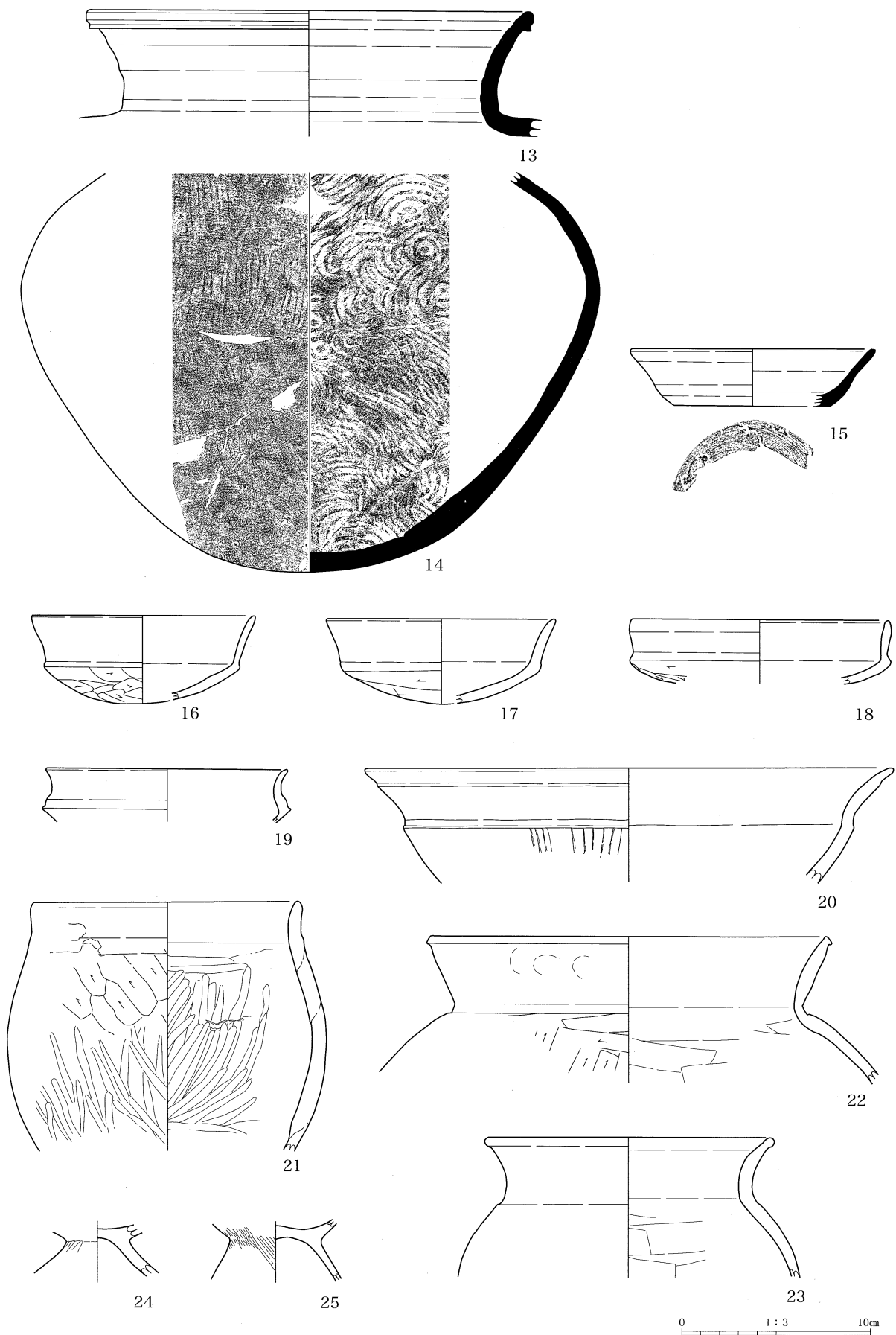
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性有り。締まり有り。鉄分・Ⅷ層土少量含む。
- 2 黒色土 (5Y2/1) 粘性有り。締まり弱。白色軽石少量含む。
- 3 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性有り。締まり弱。白色軽石少量含む。



第6図 SD1・2、Pit1 断面図



第7図 SD1 出土遺物 (1)



第8図 SD1 出土遺物 (2)

ラ状工具による磨きが施される。胴部内面には同様の磨きが施される。

SD1-3からは須恵器・土師器が覆土上層を中心に出土している。須恵器では坏蓋・坏身・高坏・平瓶・提瓶・甕・壺などが出土している。1は坏蓋で厚みがあり、天井部は手持ちへう削りによって整形される。天井部と口縁部の境には沈線が1条施される。つくりは全体的に粗雑である。2は坏身で底部1/2と口縁部を欠損する。底部は回転へう削りによって整形される。3は長脚二段透かしの高坏であるが、通常の高坏とは異なる特徴が見られる。坏体部は、脚部の径に対して大振りに作られる。口縁部は強く外反し、一部には半円状の切り込み、あるいは透かしが施されている。5は壺の肩部であり、胴部と肩部の境に弱い沈線が1条施され、沈線上位には波状文が施される。6は試掘調査時にSD1上面に相当する位置から出土した短頸壺である。外面に窯壁が融着している。8は提瓶の胴部破片である。9～13は甕口縁部の破片である。9・11・12は器形や断面形状、口縁部に施された波状文など共通する特徴が見られるが、12は酸化焰焼成で、口縁部内面に「一」の字状のへう記号が認められる。須恵器甕は、本節に掲載した個体の他にも胴部破片が数点出土している。15は平底の坏で、底部は回転糸切りである。土師器では、模倣坏・甕・壺・鉢が出土している。16・17の模倣坏は底部と口縁部の境に弱い段があり、底部はへう削りによって整形、口縁部は外反する。18の模倣坏は器高が低く、口縁部は直立する。23は小型の甕で、胴部上位から口縁部にかけての破片である。20は鉢で体部～口縁部にかけての破片である。

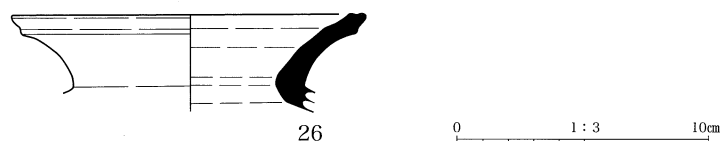
時 期 遺構確認面がAs-B混土より下であることから、本溝は12世紀以前に埋没していると考えられる。出土遺物が示す時期は、SD1-1は6世紀末頃、SD1-2は6世紀末～7世紀初頭頃、SD1-3は6世紀後半～7世紀前半である。このうち、SD1-3出土の須恵器坏(15)のみ9世紀前半頃の特徴を示している。出土遺物は古墳時代後期を主体とし、平安時代の遺物が1点出土しているが、埋没過程で混入している可能性もあるため一概には各溝の時期を特定することはできない。遺物の混入などもあり本溝が機能していた明確な時期を特定することは困難だが、IV層に覆われていることから、概ね6世紀後半～7世紀初頭、古墳時代後期から終末期にかけて機能していたと考えられる。

SD2 (第5・6・9図 PL.2・4)

位 置 A・B-1からA・B-4グリッドにかけて調査区を東西に横切り、北側にはSD1が並行して走る。
規模・形状 検出長24.7m、最大幅2.0m、深度0.3m。底面標高は調査区西端で89.45m、東端で89.20mとなり、緩やかに西から東へ傾斜している。溝の形状は直線的で、断面形状は半円形を呈する。覆土は少量の白色軽石粒を含む黒色土である。西端から約10mの地点には、土坑状の掘り込みが確認された。掘り込み部分の覆土は本溝と同じであり、溝の一部と判断した。北側で並行しているSD1との新旧関係であるが、本溝は低地へ向かう落ち込み付近において、V層・VI層下で検出されている。SD1最初の掘り直しであるSD1-2はV層・VI層を掘り込んで構築されており、本溝は既に埋没していたと考えられる。本溝がSD1-1と並行して存在したか確証はないが、SD1-2以前に掘られた溝と考えられる。

出土遺物 須恵器甕の口縁部破片(26)が出土している。

時 期 出土遺物は破片1点のみであり、明確に時期を特定することは困難だが、SD1-2より古いことから、6世紀代の可能性がある。



第9図 SD2 出土遺物

第2節 土坑

SK1 (第10図 PL.2)

位置 B-3グリッドに位置する。

規模・形状 遺構の南側がSD1に壊されている。平面形状は推定隅丸方形、断面形状は階段状になるものと思われる。残存値で南北1.6m、東西2.0m、深さ0.6mを測る。覆土は粘性の強い黒褐色土、黒色土からなる。遺構の性格は不明である。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 不明である。

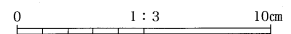
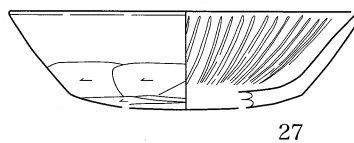
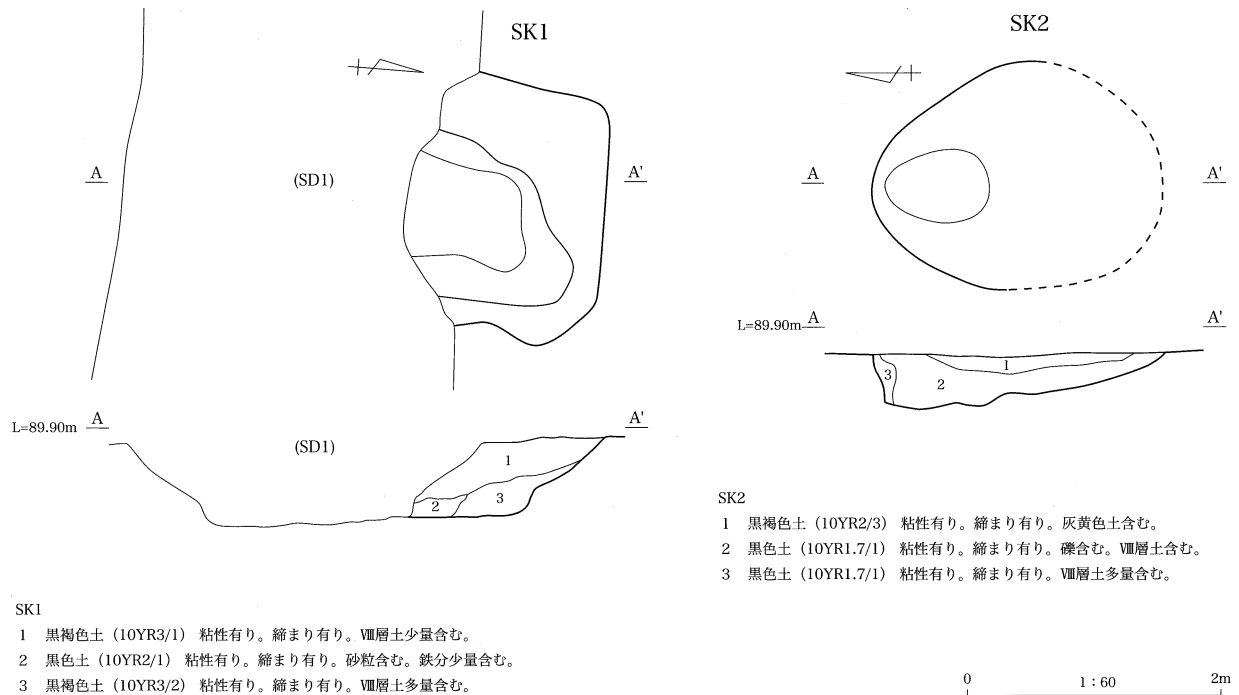
SK2 (第10図 PL.2・4)

位置 B-3・4グリッドに位置する。

規模・形状 平面楕円形、断面逆台形でIV層上から掘り込まれた土坑である。長軸2.3m、短軸1.4m、深さ0.4mを測る。調査区東部においてSD1埋没後、その一部を壊して構築される。覆土は粘性の強い黒褐色土と黒色土からなる。遺構の性格は不明である。

出土遺物 土師器坏(27)が出土している。体部内面に放射状のへう磨きが施される。

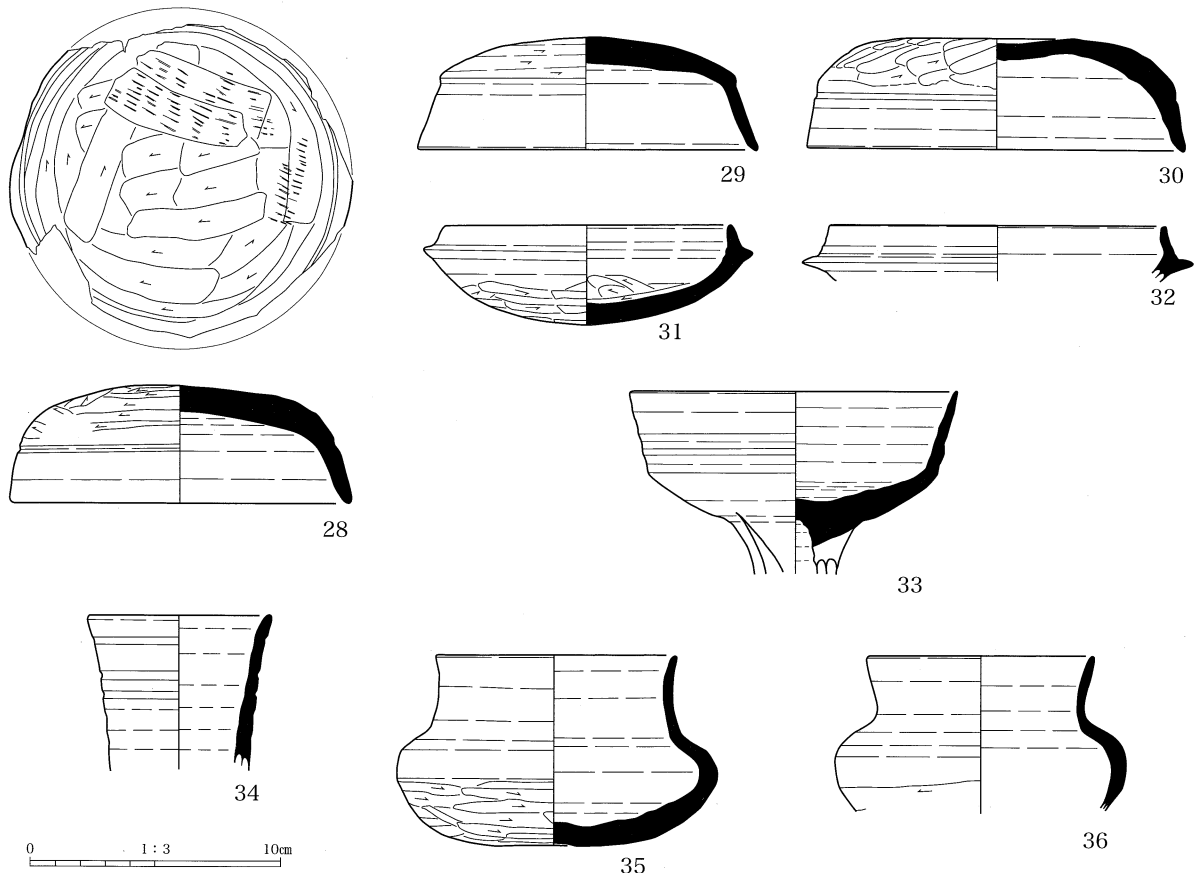
時期 出土遺物から8世紀前半と考えられる。



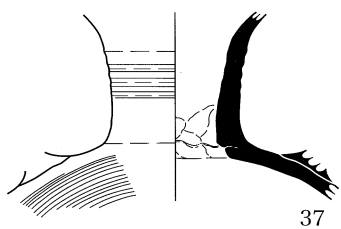
第10図 SK1・2、SK2 出土遺物

第3節 遺構外出土遺物(第11～12図 PL.4～5)

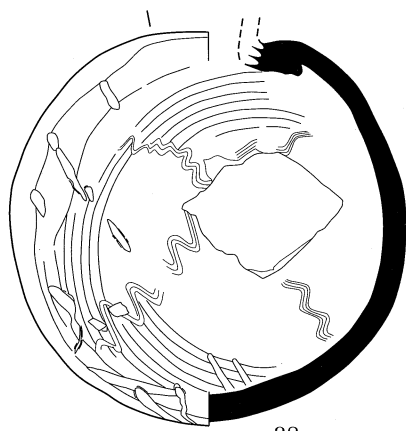
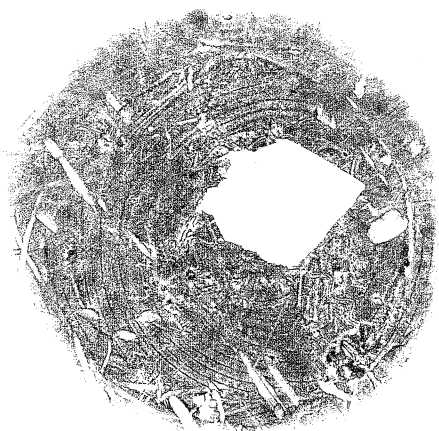
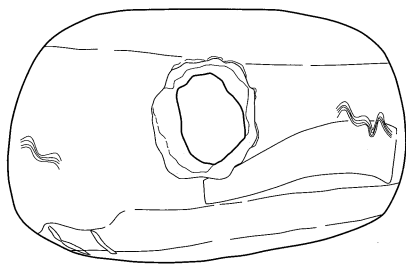
東側低地を覆うIV層からの出土遺物を本節に掲載した。遺物は須恵器と土師器が出土しており、このうち須恵器提瓶(38)の中からは滑石破片(48)が出土している。遺物は調査区北東部に集中する傾向がある。28・30の須恵器坏蓋は厚みがあり、天井部を手持ちへら削りで整形する。SD1出土の坏蓋と同じ特徴がある。これに対し29は天井部が回転へら削りによって整形されており、天井部と口縁部の境には沈線は施されない。31の坏は底部を手持ちへら削りによって整形され、口縁部は短く僅かに内傾する。32は蓋受け部から口縁部にかけての破片である。33の高坏は体部に弱い沈線が2条施される。脚部は大半を欠損するが、坏底部との接合部には三方透かしが認められる。透かしは切り込み状の粗雑なものである。35・36の短頸壺は、ほぼ同様の器形と思われる。35は口縁の一部を除いて残存しており、底部は手持ちへら削りによって整形される。これに対し、36は回転へら削りによって整形されている。37の提瓶は頸部と肩部の破片である。38の提瓶は全体的に粗雑なつくりで、胴部正面には部分的にカキ目が施され、波状文が「×」状に施される。波状文は胴部側面にも部分的に施される。頸部を欠損した状態で出土しており、内部からは土に混じって滑石の破片が20点以上、計35.8g出土した。若干緑色がかった不純物の多い石質で、破片4点が接合したもの(48)を図示した。滑石は石製品の石材として多く用いられることから、詳細は不明だが何らかの祭祀的行為に伴って提瓶内に納められた可能性は高いであろう。また、46・47のいわゆる手捏ね土器も祭祀的行為に伴う供献用途と考えることができる。土師器の模倣坏はSD1出土のものと共通する特徴が見られるが、43は若干異なる特徴がある。底部から体部にかけて深みがあり、口縁部は短く直立する。内外面には黒色処理が施される。44の高坏は短脚、45は長脚でともに坏部を欠損する。遺物の時期は、SD1出土遺物とほぼ同時期の6世紀後半～7世紀初頭、古墳時代後期から終末期である。



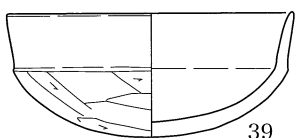
第11図 遺構外出土遺物(1)



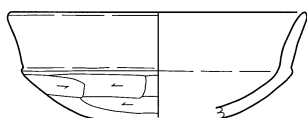
37



38



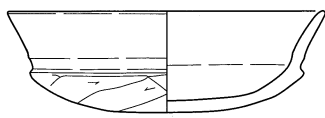
39



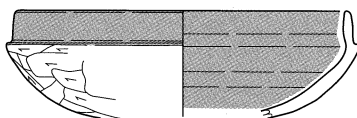
40



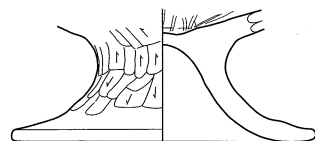
41



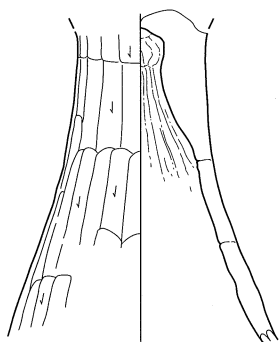
42



43



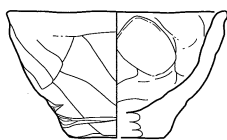
44



45



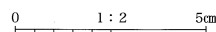
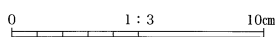
46



47



48



第12図 遺構外出土遺物(2)

第3表 溝状遺構観察表

No	グリッド	検出面	断面形状	走行方向	規模 (m)			重複関係・備考
					長さ	幅	深さ	
SD1-1	B-1~4	Ⅶ層	逆台形	N-86°-E	(15.0)	4.0	0.7	
SD1-2	B-1~4	Ⅶ層	逆台形	N-86°-E	24.5	8.0	0.5	SK1より新しく、SK2より古い。
SD1-3	B-1~4	Ⅶ層	葉研状	N-86°-E	24.5	3.5	0.7	SK1より新しく、SK2より古い。
SD2	A・B-1~A・B-2	Ⅶ層	逆台形	N-84°-E	24.7	2.0	0.3	

第4表 土坑観察表

No	グリッド	検出面	断面形状	平面形状	規模 (m)			重複関係・備考
					長軸	短軸	深さ	
SK1	B-3	Ⅶ層	階段状	隅丸方形?	(1.6)	2.0	0.6	SD1より古い。
SK2	B-3~4	Ⅶ層	逆台形	楕円形	2.3	1.4	0.4	SD1より新しい。

第5表 SD1出土遺物観察表 (1)

No	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
2	須恵器 坏	SD1-3	口:- 高:(3.3) 底:- 最大径:- 口縁~底部1/2 褐灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:体部右回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。
3	須恵器 高坏	SD1-3	口:- 高:(14.0) 底:- 最大径:- 坏~脚部 灰色/良好・還元焰	砂粒	坏部・脚部ロクロ整形。口縁に透かし状切り込み。長脚二段、方形三方透かし。内:体部指頭痕。底部当て具痕。
4	須恵器 壺	SD1-3	口:(15.2) 高:(6.0) 底:- 最大径:- 口縁部破片 灰白色/良好・還元焰	細砂粒、白色 砂粒	ロクロ整形。
5	須恵器 壺	SD1-3	口:- 高:(8.9) 底:- 最大径:- 肩~胴部破片 灰白色/不良・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:胴部上位に波状文。
6	須恵器 短頸壺	試掘 (SD1)	口:(8.5) 高:(4.5) 底:- 最大径:(11.5) 口縁~胴部破片 暗オリーブ色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:胴部上位に沈線2条で段を付ける。自然釉かかる。窯壁融着。
7	須恵器 提瓶?	SD1-3	口:- 高:- 底:- 最大径:- 胴部破片 褐灰色/良好・還元焰	砂粒	外:ヘラ削り。内:ナデ。
8	須恵器 提瓶	SD1-3	口:- 高:(16.0) 底:- 最大径:(21.8) 胴部破片 外:暗灰色 内:灰色/良好・還元焰	黒色砂粒、白色 砂粒	ロクロ整形。 外:胴部正面~側面同心円状カキ目。
9	須恵器 甕	SD1-3	口:(15.8) 高:(7.8) 底:- 最大径:- 口縁部破片 灰白色/良好・還元焰	長石、黒色砂 粒、白色砂 粒、細砂粒	ロクロ整形。外:口唇部に波状文、沈線。頸部沈線。肩部タタキ。 内:体部当て具痕。
10	須恵器 甕	SD1-3	口:(18.0) 高:(10.5) 底:- 最大径:- 口縁~胴部破片 灰色/良好・還元焰	砂粒	外:口縁部波状文。体部タタキ。内:口縁部自然釉。体部当て具痕。
11	須恵器 甕	SD1-3	口:(19.2) 高:(4.9) 底:- 最大径:- 口縁部破片 灰白色/不良・還元焰	長石、砂粒、 橙色砂粒	ロクロ整形。 内外面摩擦著しい。
12	須恵器 甕	SD1-3	口:(20.0) 高:(8.8) 底:- 最大径:- 口縁~頸部破片 橙色/良好・酸化焰	砂粒、粗砂粒	ロクロ整形。外:口唇・口縁部波状文、肩部タタキ。内:口縁部内面に「一」状のヘラ記号。
13	須恵器 甕	SD1-3	口:(23.4) 高:(6.7) 底:- 最大径:- 口縁部破片 褐灰色/良好・還元焰	長石、白色砂 粒	ロクロ整形。外:肩部タタキ。
14	須恵器 甕	SD1-3	口:- 高:(21.4) 底:- 最大径:33.7 肩~底部1/2 灰色/良好・還元焰	砂粒	外:タタキ。内:当て具痕。 底部内面に閉塞痕。
15	須恵器 坏	SD1-3	口:(13.0) 高:3.0 底:(8.2) 最大径:- 口縁~底部1/4 灰色/やや良・還元焰	砂粒	ロクロ整形。底部回転系切り。
16	土師器 坏	SD1-3	口:11.8 高:4.7 底:- 最大径:- 口縁~底部3/4 橙色/良好・酸化焰	砂粒、粗砂粒	外:口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。
17	土師器 坏	SD1-3	口:(12.0) 高:(4.5) 底:- 最大径:- 口縁~底部2/3 橙色/良好・酸化焰	石英、砂粒	外:口縁部ヨコナデ。底部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。
18	土師器 坏	SD1-3	口:(14.0) 高:(3.4) 底:- 最大径:- 口縁~底部破片 外:にぶい黄褐色 内:にぶい褐色/良好・酸化	雲母、白色砂 粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部ヘラ削り。
19	土師器 坏	SD1-1	口:(12.8) 高:(2.8) 底:- 最大径:- 口縁~体部破片 橙色/やや良・酸化焰	長石、絹雲母	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。
20	土師器 鉢	SD1-3	口:(28.0) 高:(6.1) 底:- 最大径:- 口縁~体部破片 橙色/良好・酸化焰	雲母、砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

第6表 SD1出土遺物観察表(2)

No.	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
21	土師器 甕	SD1-2	口:(14.0) 高:(13.3) 底:- 最大径:(17.0) 口縁~胴部1/3 にぶい橙色/やや良・酸化焰	石英、雲母、 小礫、粗砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後、下半に粗いヘラ磨き。内:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ磨き。 台付甕か。
22	土師器 甕	SD1-3	口:(21.0) 高:(7.8) 底:- 最大径:- 口縁~胴部破片 外:橙色 内:にぶい橙色/良好・酸化焰	雲母、砂粒	外:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
23	土師器 甕	SD1-3	口:(15.2) 高:(7.4) 底:- 最大径:- 口縁~胴部破片 にぶい黄橙色/良好・酸化焰	角閃石、長石、 石英、雲母、 砂粒	外:口縁部ヨコナデ。内:口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。
24	土師器 高坏	SD1-3	口:- 高:(2.8) 底:- 最大径:- 杯~脚部破片 にぶい橙色/良好・酸化焰	角閃石、 砂粒、粗砂粒	外:脚部ヘラ削り後磨き? 内:脚部ヘラナデ。
25	土師器 台付甕	SD1-3	口:- 高:(3.3) 底:- 最大径:- 底~台部破片 外:にぶい黄橙色 内:灰黄褐色/良好・酸化焰	雲母、砂粒	外:台部ハケ目。内:底部・台部ともにナデ。古墳前期。

第7表 SD2出土遺物観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
26	須恵器 壺	覆土	口:(14.0) 高:(3.9) 底:- 最大径:- 口縁~頸部破片 褐灰色/良好・還元焰	黒色粒、砂粒	ロクロ整形。

第8表 SK2出土遺物観察表

No.	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
27	土師器 坏	覆土	口:(14.0) 高:(3.8) 底:(9.0) 最大径:- 口縁~底部1/3 橙色/良好・酸化焰	雲母、砂粒、 粗砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体部下半~底部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。体部放射状ヘラ磨き。

第9表 遺構外出土遺物観察表(1)

No.	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
28	須恵器 坏蓋	IV層	口:(13.4) 高:4.5 底:- 最大径:- 天井~口縁部3/4 黄灰色/良好・還元焰	砂粒、細礫	ロクロ整形。 外:天井部回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り。内:沈線1条。
29	須恵器 坏蓋	IV層	口:(13.5) 高:4.4 底:- 最大径:- 天井~口縁部1/3 外:褐灰色 内:にぶい橙色/不良・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:天井部回転ヘラ削り(右回転)。 口唇部が部分的に有段。
30	須恵器 坏蓋	IV層	口:(15.0) 高:4.4 底:- 最大径:- 天井~口縁部1/2 外:黄灰色 内:灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:天井部手持ちヘラ削り。内:天井部に布目圧痕。
31	須恵器 坏	IV層	口:11.3 高:4.0 底:- 最大径:- ほぼ完形 褐灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:底部手持ちヘラ削り。内:底部中央が摩滅。使用によるものか。
32	須恵器 坏	IV層	口:(13.4) 高:(2.2) 底:- 最大径:- 口縁~体部破片 灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。
33	須恵器 高坏	IV層	口:(12.9) 高:(7.2) 底:- 最大径:- 坏部3/4~脚部破片 灰白色/やや良・還元焰	砂粒	坏部・脚部ロクロ整形。 内:底部中央に指頭痕。 脚部三方透かし。
34	須恵器 壺	IV層	口:(7.2) 高:(6.2) 底:- 最大径:- 口縁~頸部破片 暗灰色/良好・還元焰	長石、砂粒	ロクロ整形。 外:頸部に沈線3条。
35	須恵器 短頸壺	IV層	口:(9.5) 高:7.55 底:- 最大径:12.7 口縁2/3欠損、頸~底部完形 灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:胴下位~底部手持ちヘラ削り。
36	須恵器 短頸壺	IV層	口:(9.0) 高:(6.1) 底:- 最大径:(11.5) 口縁~胴部破片 灰白色/やや不良・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:胴下位回転ヘラ削り。内:ヨコナデ。
37	須恵器 提瓶	IV層	口:- 高:7.9 底:- 最大径:- 頸~肩部破片 外:暗灰色 内:灰色/良好・還元焰	砂粒	ロクロ整形。 外:胴部正面同心円状カキ目。頸部に沈線3条。内:頸部接合部指押さえ。
38	須恵器 提瓶	IV層	口:- 高:(15.6) 底:- 最大径:15.8 口縁~頸部欠損 灰白色/良好・還元焰	雲母、黒色砂 粒、白色砂粒	胴部ロクロ整形。 外:胴部各面に波状文。正面に同心円状カキ目。胴部回転ヘラナデ。内: ナデ。滑石破片を胎藏。
39	土師器 坏	IV層	口:11.2 高:4.9 底:- 最大径:- 口縁~底部1/2 橙色/良好・酸化焰	角閃石、褐色 砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部ヘラ削り。内:口縁部ヨコナデ。底部ナデ。

第10表 遺構外出土遺物観察表(2)

No.	種別 器種	出土 位置	法量(cm・g) 残存 色調/焼成	胎土	特徴・調整・文様等
40	土師器 杯	IV層	口:(11.5) 高:(4.2) 底:- 最大径:- 口縁~体部1/3 橙色/良好・酸化燻	雲母、長石、 褐色砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。体部 ナデ。
41	土師器 杯	IV層	口:12.0 高:4.1 底:- 最大径:- ほぼ完形 橙色/良好・酸化燻	長石、赤色砂 粒、黒色砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。底部ナ デ。
42	土師器 杯	IV層	口:(12.4) 高:4.0 底:- 最大径:- 口縁~底部1/2 橙色/良好・酸化燻	長石、褐色砂 粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。底部ナ デ。
43	土師器 杯	IV層	口:(13.0) 高:(4.2) 底:- 最大径:- 口縁~底部破片 外:にぶい赤褐色 内:黒褐色/良好・酸化燻	雲母、赤色砂 粒	外:口縁部ヨコナデ。体~底部部ヘラ削り。口縁部黒色処理。 内:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。黒色処理。
44	土師器 高杯	IV層	口:- 高:(5.2) 底:(12.0) 最大径:- 杯~脚部1/2 橙色/良好・酸化燻	雲母、砂粒、 粗砂粒	外:脚部ヘラ削り。裾端部ヨコナデ。 内:杯部放射状ヘラミガキ。
45	土師器 高杯	IV層	口:- 高:(13.4) 底:- 最大径:- 脚部1/2 橙色/良好・酸化燻	雲母、砂粒、 粗砂粒	外:ヘラ削り後磨き? 内:上半絞り目痕。下半ヘラナデ。
46	土師器 粗製鉢形 土器	IV層	口:- 高:(5.9) 底:(5.5) 最大径:(10.5) 口縁~底部1/4 外:にぶい黄橙色 内:灰黄褐色/良好・酸化燻	砂粒、粗砂粒	外:ナデ。 内:ナデ。 手捏ね土器。
47	土師器 粗製鉢形 土器	IV層	口:(8.8) 高:5.0 底:(3.8) 最大径:- 口縁~底部1/2 灰黄色/良好・酸化燻	石英、角閃 石、粗砂粒	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り後ナデ。 内:ナデ。 手捏ね土器。
48	滑石 破片	IV層	長さ:4.3 幅:2.8 厚さ:1.8 重量:14.5		No.38提瓶内から出土。破片4点接合。擦痕・穿孔等の加工痕なし。

第VI章 まとめ

上中居宇名室遺跡において検出された遺構は、溝状遺構2条、土坑2基、ピット1基とわずかであるが、調査区東端では低地へと向かう落ち込みが確認されており、出土遺物の大半はここから出土している。出土遺物は整理箱に換算して5箱程である。

主要な遺構である溝2条のうち、SD1は当初、1条の溝として調査したが、調査が進むにつれ2回掘り直されている溝であることが判明した。SD2はSD1よりも規模が小さい溝であるが、SD1と同じ走行方向であり、同様の性格を持つ溝である可能性が高い。土坑は2基とも性格は不明である。

SD1-3の出土遺物には7世紀前半の遺物以外に、SD1-1よりも古い時期の遺物が混入している。古い時期の遺物は6世紀後半頃であり、須恵器坏(2)・高坏(3)・提瓶(8)・甕(10～14)と、すべて須恵器という点の特徴である。また、IV層出土遺物とSD1出土遺物には同時期のものが含まれており、接合関係も認められる。SD1が最終的に埋没した時期はIV層堆積時と考えられる。SD1とIV層の出土遺物は6世紀後半～7世紀初頭を主体としており、SD1の埋没およびIV層堆積時期は7世紀初頭であった可能性が高い。

溝の性格としては、当初は中近世以降の環濠や区画溝である可能性も考えられたが、As-B 混土下からの検出である点や出土遺物が古墳時代を主体とすることなどから、最終的に古墳時代後期から終末期の灌漑用水路であると判断した。

出土遺物については、甕や甑のように集落で用いられる生活用具がほとんど見られないことや、異形の高坏や提瓶、手捏ねと呼ばれる粗製土器など、祭祀的な要素が見られる点の特徴的である。周辺の集落・古墳からの流れ込みとも考えられるが、河川や用水路などの水場における祭祀的行為の可能性も指摘しておきたい。調査結果としては不明・推測が多くなってしまったが、今後周辺の調査が進展することによって上中居町周辺の生活・生産の様相がさらに明らかになっていくことを期待したい。

引用・参考文献

- 高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代 I』 1999
高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代 II』 2000
高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編 3 中世 I』 1996
高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 通史編 1 原始古代』 2003
群馬県史編さん委員会 『群馬県史 通史編 1 原始古代 1』 1990
坂口 一 「群馬県における古墳時代中期の土器の編年 — 共存関係による土器型式組列の検討 —」 『研究紀要 4』 1987 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
高崎市文化財調査報告書第101集 『上中居辻薬師遺跡』 1989 高崎市教育委員会
高崎市文化財調査報告書第119集 『上中居早道場遺跡』 1992 高崎市教育委員会
高崎市文化財調査報告書第127集 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 1993 高崎市教育委員会
高崎市文化財調査報告書第146集 『東町V遺跡』 1996 高崎市教育委員会
高崎市文化財調査報告書第167集 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書14』 2000 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第211集 『平成18年度市内遺跡発掘調査報告書』2007 高崎市教育委員会
高崎市文化財調査報告書第244集 『高関高根遺跡』2009 高崎市教育委員会
高崎市遺跡調査会報告書第53号 『上中居平塚Ⅱ遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
高崎市遺跡調査会文化財調査報告書第59集 『上中居西屋敷Ⅱ遺跡』1997 高崎市遺跡調査会
山武考古学研究所 『岩押町Ⅱ遺跡』1996 高崎市遺跡調査会
群馬県高崎市 『栄町Ⅱ遺跡』1999 高崎駅東口線栄町遺跡調査会
大阪府立近つ飛鳥博物館 『年代のものさし -陶邑の須恵器-』2006

写真図版



調査区全景 (西から)



SD1 全景 (西から)



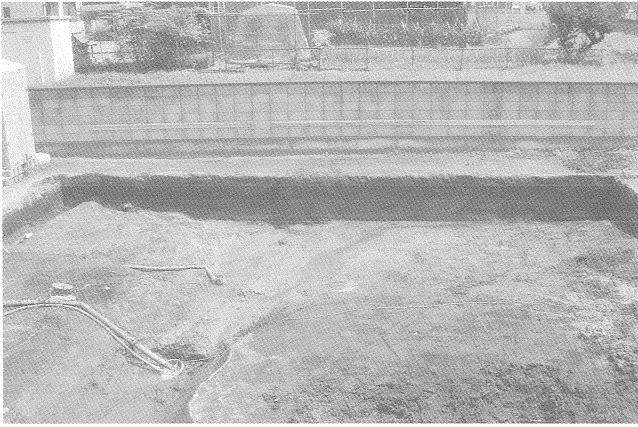
SD1 A セクション (東から)



SD1 B セクション (西から)



SD1・SD2 C セクション (南西から)



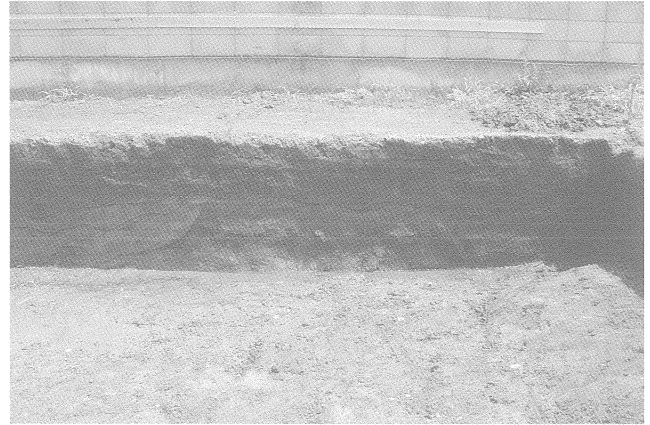
調査区東端落ち込み (西から)



SD1 Dセクション北部 (西から)



SD1 Dセクション中央 (西から)



SD1 Dセクション南部 (西から)



SD2 全景 (西から)



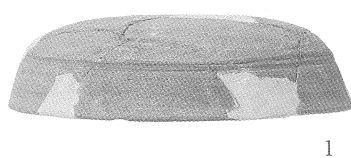
SD2 内掘り込み (西から)



SK1 全景 (東から)



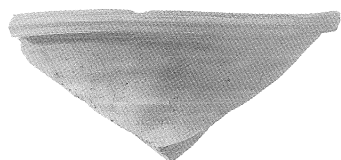
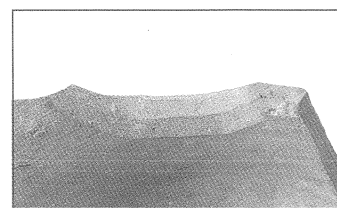
SK2 全景 (西から)



1



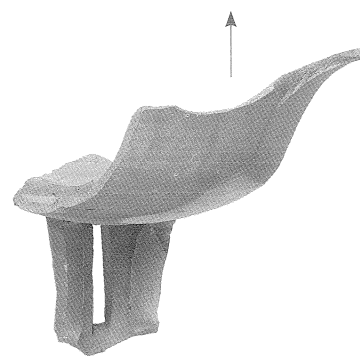
2



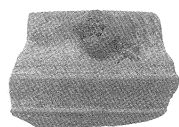
4



5



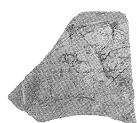
3



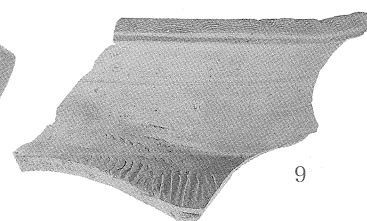
6



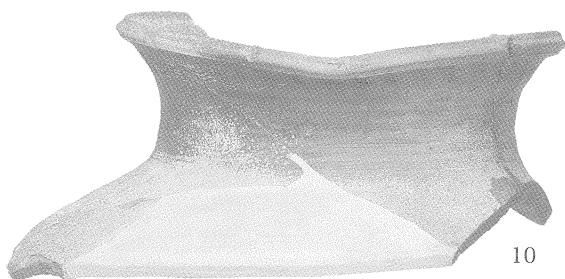
8



7



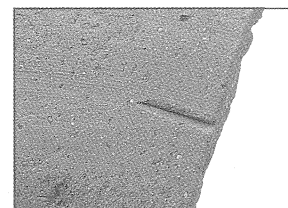
9



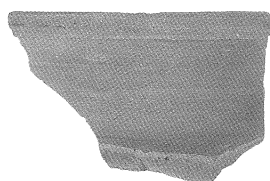
10



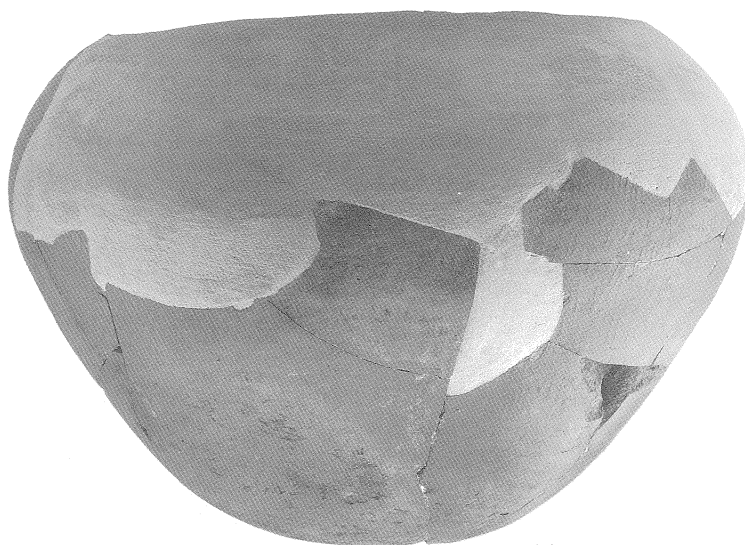
12



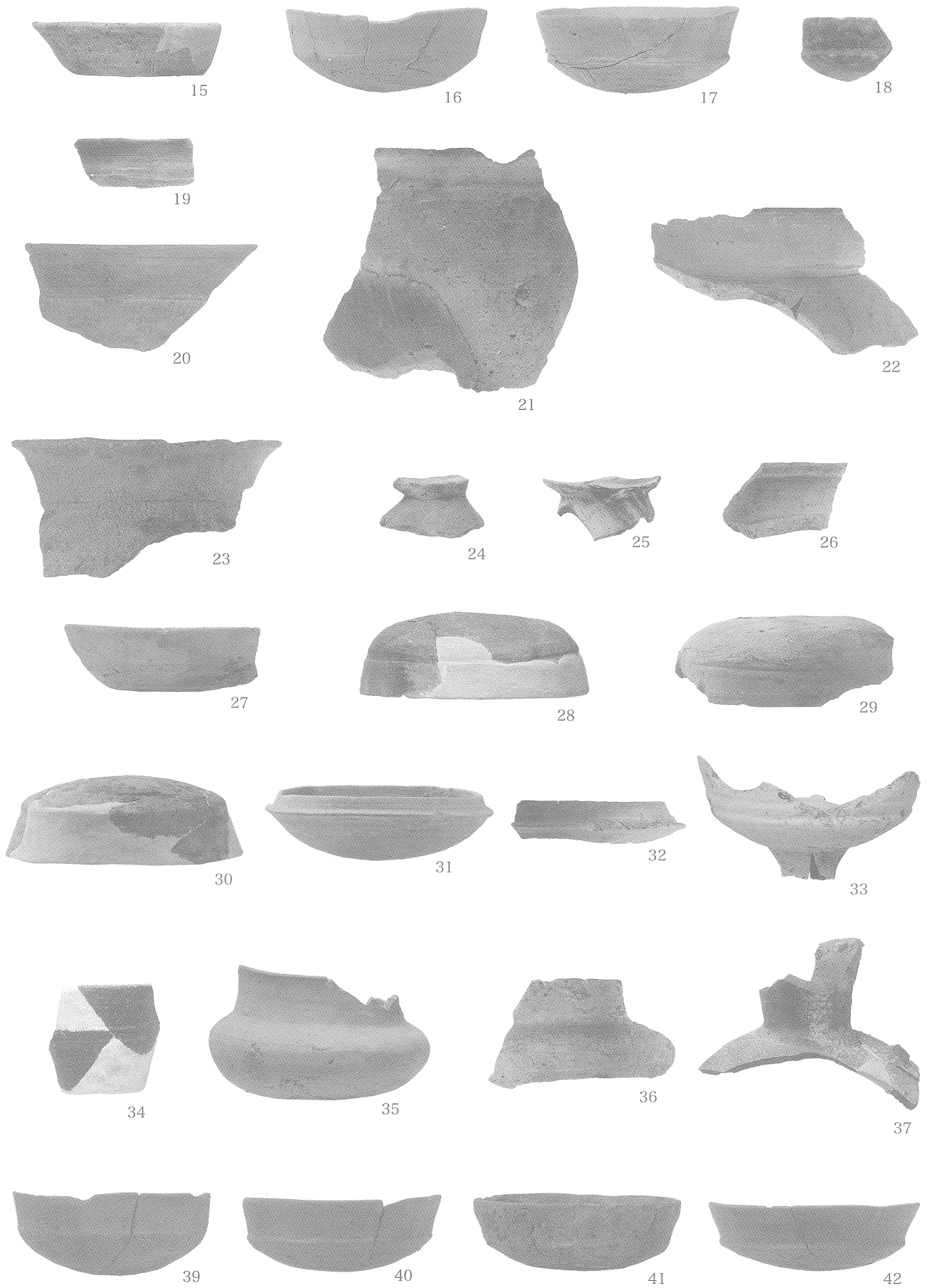
11

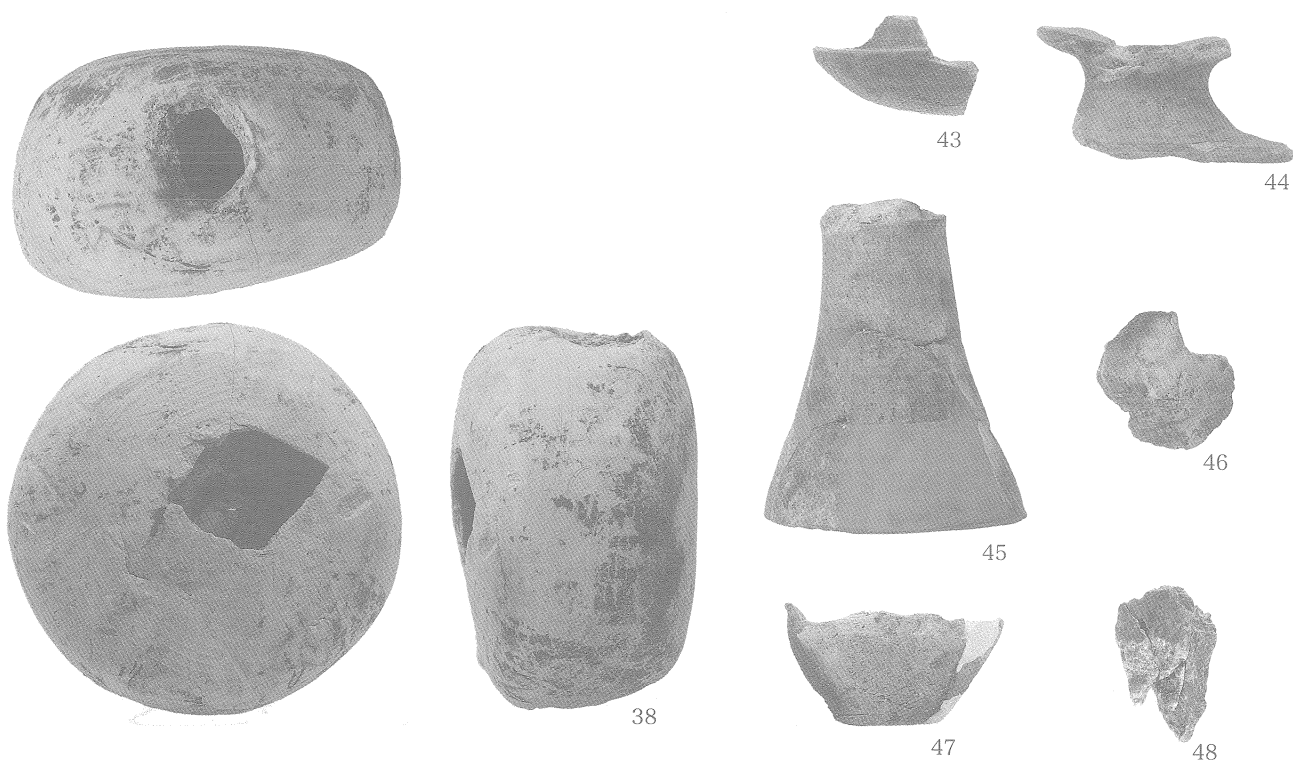


13

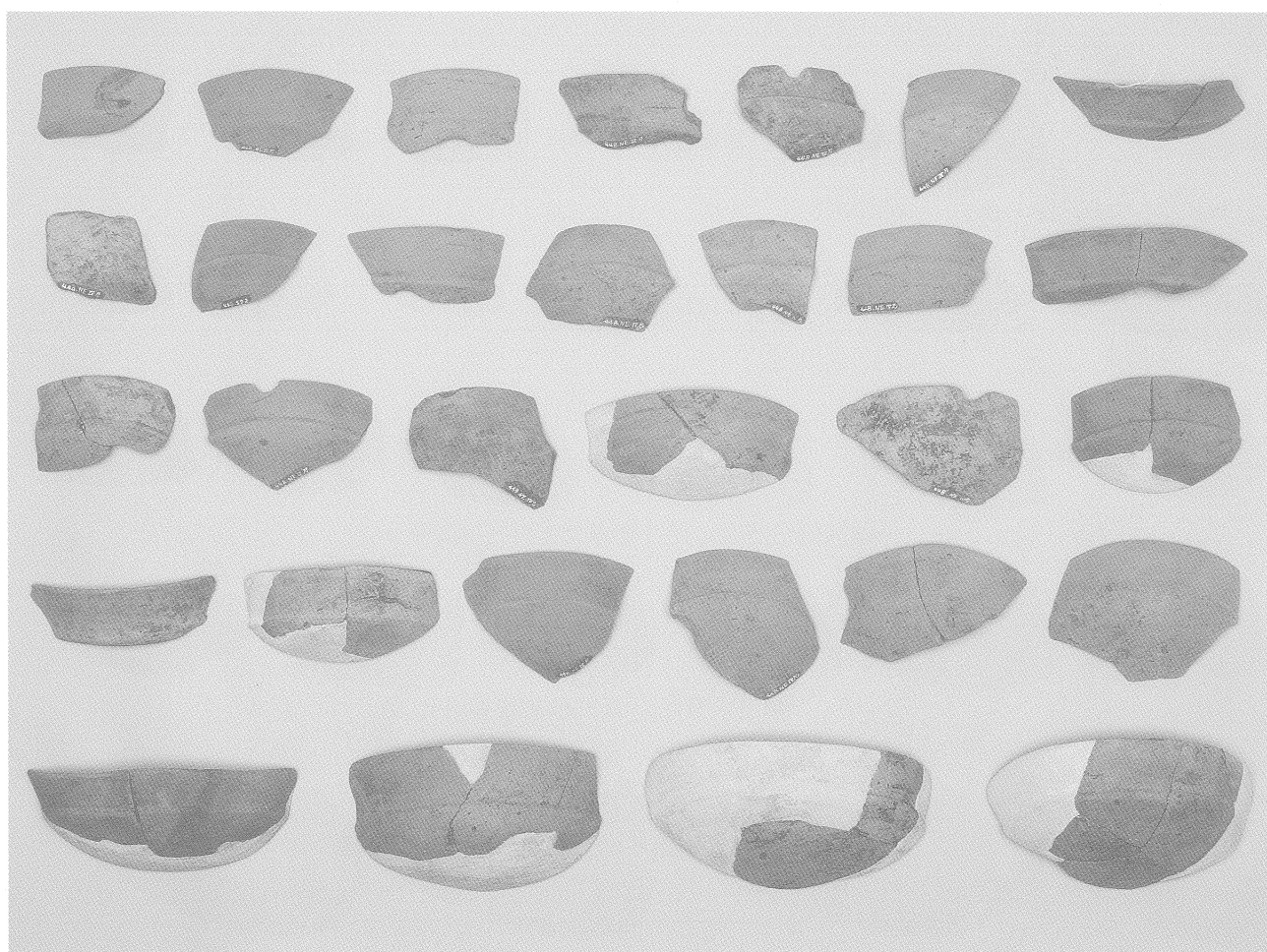


14





出土遺物 No. 38・43～48



SD1 出土土師器坏

報告書抄録

フリガナ	カミナカイ・ウナムロイセキ
書名	上中居・宇名室遺跡
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第254集
編著者名	安生素明
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
発行年月日	2010年2月28日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
カミナカイウナムロイセキ 上中居・宇名室遺跡	タカサキシカミナカイマチ 高崎市上中居町 アサウナムロ1158ハノチ1 字宇名室1158番地1	102024	448	36°19'07"	139°01'58"	2009.7.6～ 2009.8.18	310.25㎡	共同住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居・宇名室遺跡	その他	古墳時代	溝状遺構 2条	土師器・須恵器	
		奈良時代	土坑 1基	土師器	
		不明	土坑 1基 ピット 1基		

上中居・宇名室遺跡

—共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年 2月 28日 印刷

平成22年 2月 28日 発行

編集・発行／高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1

TEL 027-321-1291

印刷／細谷印刷株式会社